

海外調査報告

【海外視察調査】

海外視察調査は、県政の諸課題に関する調査を海外の先進地において実施し、議員活動に生かし、県政に反映させていくことを目的として実施しています。

議事堂1階の議会図書室に視察調査報告書を備え付けており、自由に閲覧していただけます。

私達三重県議会の五名(島本暢夫・吉川実・岩田隆嘉・山本勝・森本繁史)は八月一日から八月十日までの十日間欧州スウェーデン・スイス・ドイツを訪問し、世界遺産の現状・福祉・環境・観光をテーマに調査を行ってきました。スウェーデンの高福祉については広く知られているところですが、高福祉を維持していくためには高負担が伴うことを国民が理解しており、税金が所得の五十%以上、消費税二十五%と日本に比べて高率になっていますが、異論がないのは税の恩恵を日常生活の中で受けているという実感があるからではないかと思えます。ただEUへの加盟による負担金の拠出などが国家財

県議会新改みえ七名(田中寛・中村進一・桜井義之・大野秀郎・前田剛志・森下隆生・北川裕之)は、EUのサステイナブル政策と地域再生へのアプローチの成果と課題を検証したいという目的で、デンマーク・スウェーデン・イタリアの三国を、七月二十一日から八月四日までの日程で行政視察を行いました。
上・中・下水道を使い分け徹底した水利用の効率化を図ったり、廃棄物処理・発電・工場等の余熱を利用した地域暖房により二酸化炭素の削減に取り組むオールボー市(デンマーク)、破綻した造船業の跡地に知識集約型の先端企業と快適なマンション群を融合立地させたヨーテボリ市(スウェーデン)、歴史的建造物の修復と社会的弱者への支援、起業家支援等の経済活性化を一体化して取り組んできたシラクーサ市(イ

タリア)などを訪問しましたが、「サステイナブル(持続可能な)」をキーワードに、EUの政策のもとに、都市再生に取り組んできたこれらの都市には、共通の姿勢がみられました。
それは、いずれの都市においても、政策を進める上での基本は、あくまでもその地域に住んでいる人が安全安心に、心地よく住み続けられることであり、人間的でかつ、地域主権に裏づけられた環境、経済、社会を包括的にフランニングし、一人一人の生き方の延長線上に、まちの発展が望まれる政策の展開を生んできたことにあります。国内、県内の都市再生をみると、その発想の中に、そこに住む人の生活や文化の再生、という視点が欠けてしまっているという点を反省し、今後の施策のあり方に反映していきたいと考えます。



政を圧迫しており、国家予算の五十%以上を福祉予算に使うことは難しくなっている現状もあるようです。
スイスでは町を訪れる唯一の手段が列車しかないという不便であることを売り物にして年間百七十万泊もの観光客を集めているツェルマツトを調査しました。この町ではガソリン車は全く走れず、時間帯によっては自転車さえも規制されていました。その他ドイツではごみ収集の現状、世界遺産に対する欧州各国の取り組みについても調査を行いました。それぞれの国の政策は環境・景観保全を基軸にしていることを再認識させられました。

